

甲田遺跡Ⅱ

富田林市遺跡調査会報告10

編集・発行 富田林市遺跡調査会

住 所 〒584-8511

富田林市常盤町1番1号

発行年月日 1998年1月30日

調査地 大阪府富田林市甲田1丁目774-1、
775-1

調査原因 共同住宅建設に伴う緊急発掘調査

調査主体 富田林市遺跡調査会

調査担当者 田中正利

調査面積 179m²

調査期間 1997年10月1日～1998年1月30日

代後期の土器が出土したことから、その存在が知られるようになりました。

この遺跡は石川の中位段丘上にあり、周囲には富田林高校のあたりに古墳時代の大型建物が見つかった谷川遺跡が、遺跡の西には縄文時代からの流路が見つかった太郎池遺跡が、南側の1段低い段丘面には、弥生時代から奈良時代にかけての集落として知られる甲田南遺跡があります。

はじめに

甲田遺跡は富田林市のほぼ中央部に位置する弥生時代から中世にかけての遺跡で、1968（昭和43）年、遺跡東方の甲田浄水場進入路工事の際に、古墳時

調査地は、富田林市消防署の南側の旧国道170号線の東側に面した地点で、甲田遺跡の北端にあたります。今回の調査では土地所有者である和田義光氏の協力を得て、建物部分の東半分について調

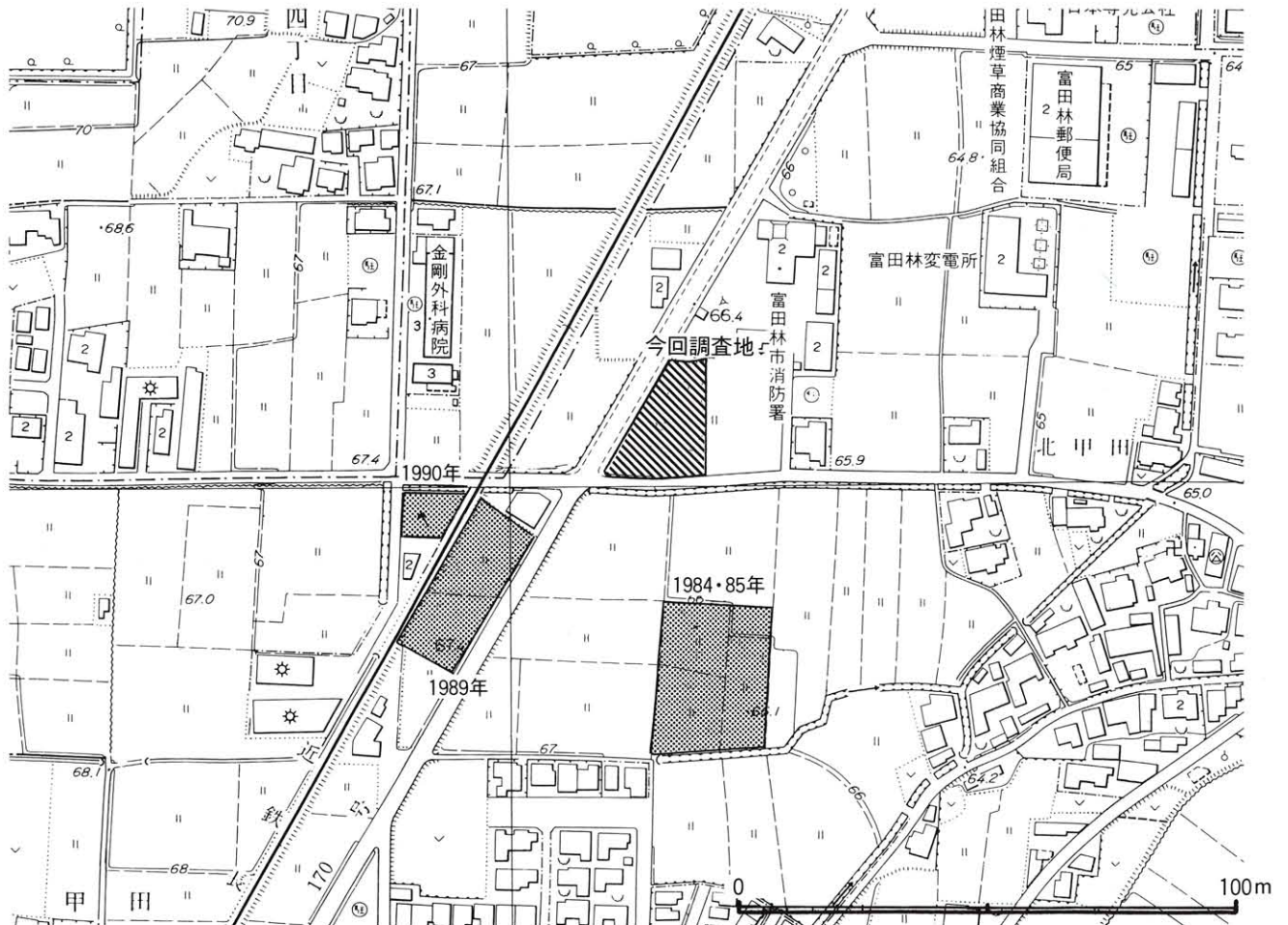


図1 甲田遺跡調査地位置図

査しました。

層序

調査前は水田で、今回の調査で時期の異なる水田が、現在のものを含めて3面確認されました。最も古い水田は、出土した遺物から12世紀頃のものと考えられます。

層序は上から順に耕土、床土、灰黄色土（第2面耕土）、灰黄褐色弱粘質土（第2面床上）、灰褐色弱粘質土（第3面耕土）で、現況から約0.5m下が黄灰色弱粘質土の地山です。遺構はすべて地山面で検出されました。

遺構と遺物

今回の調査では溝1条とピット29個が検出されました。また哺乳類のものとみられる足跡も検出されました。

溝 調査区の中央よりやや西に寄ったところで検出された、深さ約0.1mを測る南北溝で、底面は南から北へ傾斜しています。幅は南側で2.4mであるのに対し、北側では4mに広がっています。最も古い水田が造られた時に削平されているようで、当初はさらに規模の大きなものだったと考えられます。埋土は褐灰色混砂粘質土で、平安時代のものとみられる土師器が少量出土しています。

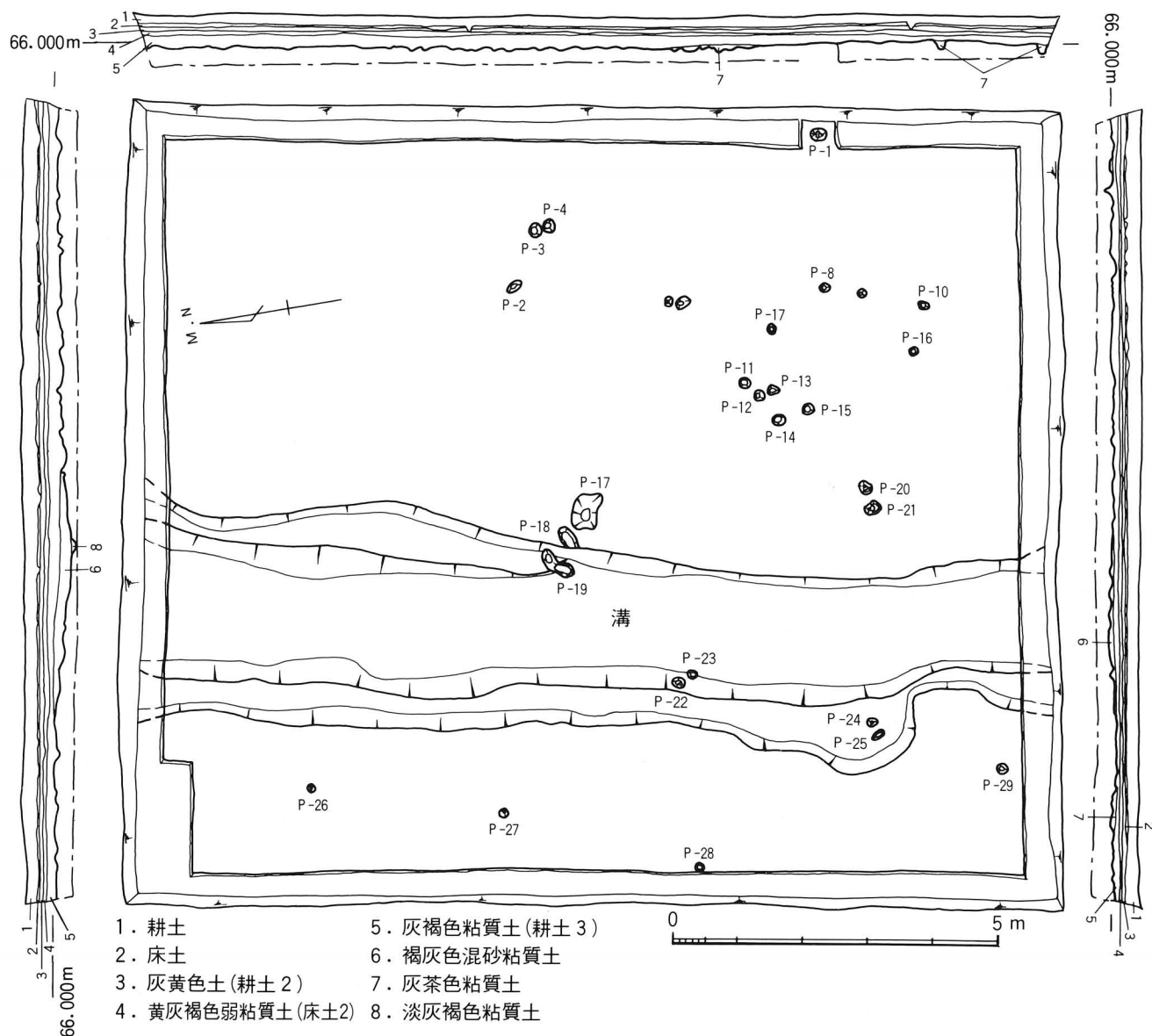


図2 遺構配置図

遺構番号	形状	規模 (m)	深さ (m)	土色	遺物
P-1	不整形	0.23 × 0.17	0.15	暗褐色弱粘質土	なし
P-2	不整形	0.25 × 0.13	0.07	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-3	楕円形	0.22 × 0.18	0.11	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-4	楕円形	0.20 × 0.17	0.08	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-5	不整形	0.13 × 0.10	0.08	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-6	不整形	0.23 × 0.15	0.16	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-7	不整形	0.17 × 0.13	0.05	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-8	円形	0.14 × 0.13	0.03	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-9	円形	0.14 × 0.12	0.05	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-10	不整形	0.18 × 0.11	0.03	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-11	不整形	0.15 × 0.14	0.06	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-12	不整形	0.16 × 0.14	0.06	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-13	楕円形	0.18 × 0.15	0.10	濁灰褐色弱粘質土	〃
P-14	不整形	0.18 × 0.14	0.04	濁灰褐色弱粘質土	〃
P-15	不整形	0.16 × 0.16	0.04	濁灰褐色弱粘質土	〃
P-16	円形	0.16 × 0.14	0.05	濁灰褐色弱粘質土	〃
P-17	(不整形)	(0.35) × 0.20	0.04	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-18	不整形	0.51 × 0.37	0.12	濁灰褐色弱粘質土	〃
P-19	不整形	0.57 × 0.17	0.09	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-20	不整形	0.24 × 0.17	0.11	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-21	不整形	0.20 × 0.17	0.14	濁灰褐色弱粘質土	〃
P-22	不整形	0.18 × 0.16	0.09	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-23	不整形	0.15 × 0.11	0.02	灰茶色粘質土	〃
P-24	不整形	0.17 × 0.14	0.08	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-25	不整形	0.20 × 0.10	0.03	濁褐灰色弱粘質土	〃
P-26	不整形	0.14 × 0.11	0.03	灰茶色粘質土	〃
P-27	楕円形	0.15 × 0.13	0.13	暗褐灰色弱粘質土	〃
P-28	円形	0.13 × 0.13	0.03	暗褐灰色弱粘質土	〃
P-29	楕円形	0.17 × 0.14	0.03	濁褐灰色弱粘質土	〃

甲田遺跡 ピット一覧表

ピット ピットは調査区全体に散在しており、その多くは大きさが0.2m前後、深さが0.1m以下の小さなものです。溝の中で検出された4つのピットは、すべて溝より古い時期のものと考えられます。また埋土の違いからいくつかの時期に分けることができると思われますが、ピットからは遺物が出土していないので時期については分かりません。

各ピットの大きさなどについては一覧表を参照してください。

足跡 哺乳類のものと見られ、調査区のほぼ全域で検出され、特に調査区の南東部で多く検出されました。大きさは約10cmで、埋土は最も古い水田の土と同じ灰褐色弱粘質土です。

昔はウシに鋤を引かせて水田を耕していました。このときに軟らかい粘土質の地山の上をウシが歩くことで、ふつう耕されない深い所にまで踏み込まれ、それが現在まで残ったとも考えられますが、詳しいことは分かりません。

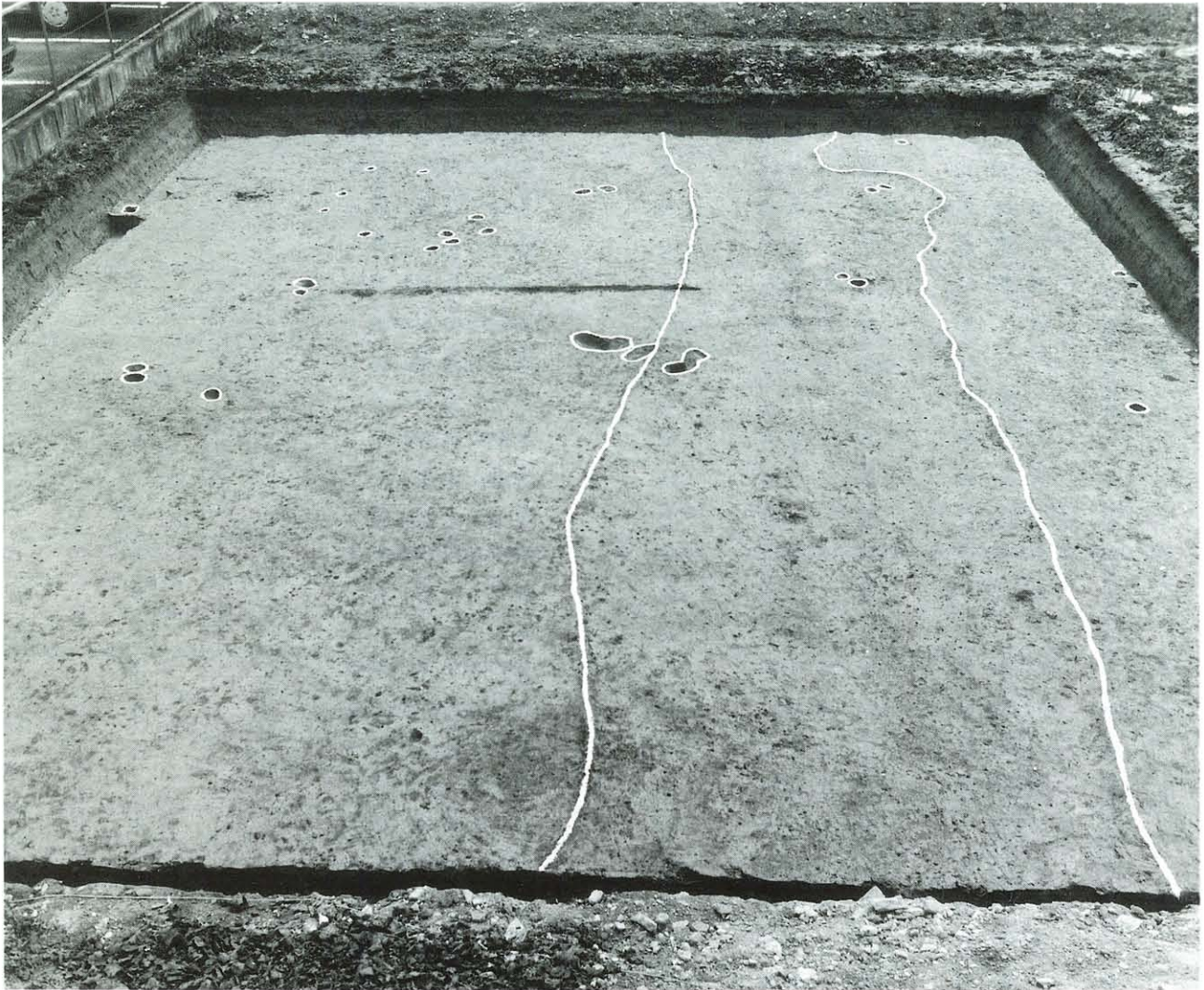


写真 調査区全景（北から）

まとめ

今から約1300年前、古代国家が成立し、律令制度が整えられていく中で、水田を6町（約654m）四方に区画を整備し、この中をさらに36の区画に分けて、これらに番号をつけてその場所を示す土地制度が行われました。これは条里制と呼ばれるもので、この区画は現在でも道路や水田、地名に残っています。

調査地周辺でも条里制の名残が見られ、これをもとに条里を復元すると、磁北よりやや東に傾いて区画されていたことが分かっています。今回見つけた溝はこの条里の方向に一致していることが分かりました。この溝は、出土している遺物か

ら平安時代には埋没したと思われます。また周辺の調査でも条里の方向と一致する中世の鋤溝が見つかっており、平安時代以降も条里の区画に沿って水田が造られ、現在に至るまで耕作が行われていたことを推測されます。

参考文献

- ・『富田林市史』第1巻 富田林市史編集委員会、1985
- ・『甲田遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会、1990
- ・『甲田遺跡発掘調査概要Ⅱ』大阪府教育委員会、1990
- ・『平成4年度富田林市内遺跡群発掘調査概要』富田林市教育委員会、1993
- ・『平成5年度富田林市内遺跡群発掘調査概要』富田林市教育委員会、1994